

学びと交流

澤田 悠輝[✉]

九州大学 芸術工学府 芸術工学専攻

この度は生物リズム若手研究者の集いに初めて参加させていただきました。この会の話をはじめ聞いたときは参加しようか迷っていましたが、参加した後の今となっては参加して大正解だったとはっきりと言えます。

参加しようか迷った理由のひとつが、博士への進学を決めていない事がありました。また、修士1年で、まだはっきりとした研究成果が出ていない状態でした。そんな状態でグループディスカッションに参加することに不安を感じていたこともあり、参加をためらっていました。しかし、実際に参加してみると、博士へ進学しない同期の学生や、まだ学部4年生の学生まで参加していました。また、以前他の学会等で知り合った学生も参加しており、彼らの存在によって、思ったよりも気楽に席につくことができました。

自分は植物の概日リズムの研究をしているのですが、現在所属している研究室では植物の研究をしている学生がおらず、なかなか植物の概日リズムに関して議論する機会が少ない状況です。この会では幅広い分野の方々に参加されており、もちろん植物の研究をされている方も多数いらっしゃいました。その方たちとお話をする中で、多くのことを学ぶことができました。周りの同期の学生の研究内容を聞くと、自分よりもしっかりとした態度と高い意欲で研究に取り組んでいて、緩みきってしまった自分の研究に対する姿勢を見つめ直さなければいけないとヒシヒシと感じました。また、グループディスカッションにおいても、自分の成果の少ない研究を先生方も真剣に聞いていただき、研究に対するモチベーションも湧いてきて、とても価値ある時間になったと思います。

宿ではグループディスカッション中に話せなかった、研究に関する深い内容や、研究とは別の趣味などの話を通じて、お酒を入れつつ親睦を深め会える素晴らしい時間となりました。博士やポスドクの方々も色々な悩みを抱えて研究に望んでいる事がわかり、悩

んでいるのは自分だけではなく、研究において遙か先を行く先輩方も同じなのだと安心することができました。

他の参加者の方々とは比べ物にならないほど生物の知識に乏しいので、先生方の講演は少し難しく感じる部分もありましたが、逆に新しい知識が増える量は多かったので講演を聞く事ができてよかったと思います。概日リズムの研究に創薬というアプローチからのお話は初めて耳にしましたし、遺伝子間のネットワークについての研究は、生物という学問に慣れていない自分からすると、なんとなく理解するのがやっとでした。しかし、確実に自分の知見を広げることができました。また、後藤先生の南極のお話を聞いて、この会にまさか南極にまで足を運んでいる研究者の方が参加しているとは思ってもみなくて驚きました。黒澤先生は、自分の研究と近い分野の内容を、全く異なる切り口で研究していらっしゃったので、とても興味深く聞くことができ、もっと詳しくお話を聞きたかったです。伊藤先生のお話は、これから研究を進めていくにあたってとてもためになるものでした。自分の略歴を紹介しつつ、その時の自分の状況や自分が考えていたことを、具体例とともにわかりやすく説明されました。伊藤先生は自分の担当教官でもありますが、初めて聞くお話もあり、どんな考え方や気持ちで研究に取り組んでいるのかを新鮮な気持ちで聞くことができましたし、こんなに素晴らしい研究者の元で研究できているのだということを認識することができました。

リズム研究に関する様々なことを学ぶことができ、また、自分の研究に対する姿勢を見つめ直すいい機会となりました。はじめ参加を迷っていたのが嘘のように、来年こそはしっかりと研究成果を携えて、再びこの会に参加したいという気持ちです。本当にこのような素晴らしい会を催してくださった世話人の方々、ありがとうございました。

✉ sawadee222@gmail.com